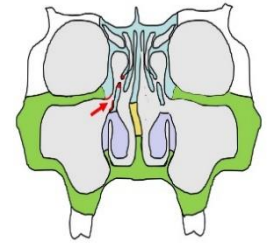


顎顔面の三次元構造と常態制御機能を知る



私たちの教室の基幹研究は、杉本名誉教授から受け継いだ神経学研究です。また、新しい顕微鏡・生化学分析機器を導入し、血管・リンパ管内皮細胞の免疫学、歯と顎骨の生物学、腫瘍生物学、抗がん剤による永久歯の形成異常、オキシタラン線維、歯周病による糖尿病性腎症の発症機構など、口腔、および口腔に直結する様々な全身の問題を追求しています。

大学院生のテーマは、疫学から分子生物学まで、私たちのモットーは、「野心を持って独自の世界を切り開き、その世界にこだわろう」です。

科学研究費によって、次のような研究がなされてきました。

- 1) 神経因性疼痛におけるニューロングリア信号物質の役割
- 2) 化学シナプスによる情報伝達を目的とした神経因性疼痛発症機構
- 3) 口腔微生物由来の血中TLRリガンドによる糖尿病性腎症の発症機序と予防

糖尿病のある人は、腎糸球体が自然免疫受容体TLRを発現し、歯周病原菌由来物質を結合して糸球体硬化を起こす。

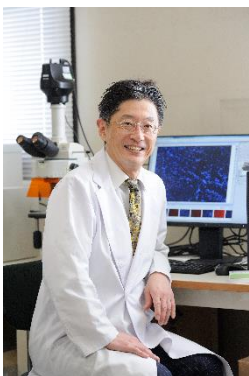
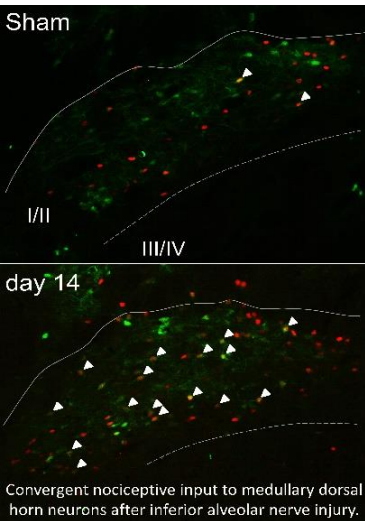
- 4) Pdpn-cKOマウス(17K19777)を用いた口腔組織由来CAFの癌幹細胞ニッチ形成機構

ガン間質線維芽細胞がポドプラニン(Pdpn)を発現すると腫瘍幹細胞の生育が促進される。

- 5) 機械的環境下でのポドプラニン依存性骨再生機構

ポドプラニンは骨の石灰化に貢献する。

- 6) 創傷治癒培養モデルを用いた口蓋裂後の瘢痕形成制御の制御に関する研究



連絡先: 口腔機能解剖学 沢禎彦
700-8558岡山市北区鹿田町2-5-1
電話番号: 086-235-6637
ファックス: 086-235-6639
E-mail: ysawa@okayama-u.ac.jp